

ひとから真に求められる『心のケア』を考えます

ベトレヘムの風

発行：ベトレヘムの園病院 隔月15日発行 編集：広報委員会
住所：東京都清瀬市梅園三丁目14番72号 ☎042-491-2525 URL: <http://www.betohp.com>



No.106

『自分のことは自分でしましょう』

院長 青木 信彦



さわやかな5月です。ベトレヘムの園病院の庭園には、巨大なハナミズキ（写真中央）とともに、めったにみられない白い藤（シロカピタン、写真左）が優雅に咲き誇っています。

そんな季節ですが、医療現場のみなさんはイマまさに（あるいはすでに）コロナワクチン接種の毎日と思います。

わたしは1回目が終わって2回目待ちですが、いつものインフルエンザワクチン接種と同じく、自分で注射をしました。

自分で注射をすると、どうしたら痛くないのか、ではどう注射したら良いのかが分かるからです（常に勉強の姿勢が大切です）。その原点は子どもの頃の親の教育にあります。「自分のことは自分でしましょうね」としつけられてきたこともイマに活かされているのです。みなさんも私のようなコドモ（あるいはマゴ）を育てると良いかと思います。

ところで、ワクチン注射を自分でする人は多くはないと思いますが、医師がするのか看護師がするのか、病院やクリニックによって異なるようです。

調べてみますと、それなりの病院では看護師が注射をしているようです。

そのような病院に理由を聞いてみたところ、「注射は看護師のほうが上手」だからとのことでした。

そう言われてみますと確かに（だれもが知っているように）通常、医師は注射をすることは無いのです。

ところがインフルエンザもそうですが、“ワクチン”となると、何を勘違いしているのか、突然、医師が注射を始めます。

とくに皮下注射やコロナのような筋肉注射などは医師になっ



てから一度もした事のない医師はまれではありません（注射をしてもらうことはあっても）。ここで、ワクチン注射をする医師のみなさんにお勧めなのは、まず注射をご自分の腕にしてみるという体験です。唯一、合法的に許可された人体実験でもあります。

この体験はきっと、これからの日本の医療の画期的な進歩につながるのではないかと（ひそかに）期待しているのです。そして最後に、いつもの“健康で仕事のできることに感謝”、とともに今回は “自分で自分のことのできることに感謝” です。





電子カルテ導入6ヶ月目を迎えて

人生初の電子カルテ、仕事をしていく上で“どう変わった”という実感は正直まだ沸かないが、電子カルテ導入に向けて病棟内が一丸となり、誰一人として「電カルなんてムリ」と拒否する人はいなかった。不安をかかえながらの指導の後に皆で教えあい、積極的に触れて習得し、1人の遅れもなくその日を迎えた。電子カルテの変化の実感はまだ先になりそうだが、ペーパーレス化の意識づけとして、増々積極的に触れて行こう。

(1階病棟 介護福祉士 富田 まさ子)

記入中のカルテが空くのを待つことなく、使っていないPCから入力できる点が良い。時々他のユーザーが入力中で登録できず、再入力にストレスを感じる。

(1階病棟 介護福祉士 國井 勲)

平均年齢の高い？当院にもIT化の波が押しよせ、6ヶ月、皆で電カルに意欲的に取り組み、今では業務をこなして行く中、

ひと通りは困る事なく1日が終わる様になった。これはすごい事だと思う！（まだ改善点はあるが・・・）面会が再開された時には、御家族の方達がテレビドラマに出ている都会の病院の様に感じちゃうのでは？なんてね。

(1階病棟 スタッフ)

字が読みやすく、整理されるようになったので、情報が取りやすくなったように思います。また情報の共有がしやすくなり、多職種の間で連携を取りやすくなったように思う。

(1階病棟 看護師 伊東 芽衣)

電カル導入後一番変わったことは、職種別の情報が共有できるようになったこと。他職種の方と患者さんとの関わりが情報を通じて様子が分かり、その患者さんの違う一面を知ることができ患者さんとの関わりが以前よりもよくなりました。

(2階病棟 看護師 神尾 操代)

院内表彰式 受賞者の声

今年3月、電子カルテの導入に多大な功績があった職員の表彰式を執り行いました。決して平坦でなかった道のりを振り返った受賞者の喜びの声(抜粋)をお伝えします。

『ボトムアップだからこそ、自分たちでやらないといけないという思いが強く、スタッフのことを考えて関係者と取り組めたように思います。一人だけの力ではなく、顔の見える人間関係だからこそ受賞に至ったのだと思います。』

(1階看護科 科長 保田 しのぶ)

『電カル経験の少ない私でしたが、病棟の混乱を避けたいと思って努力してきました。発展に携われた事は自分の良い経験です。』

(1階看護科 主任 下坂 美幸)

『電カルという大きな山を共に乗り越えたチームワークをととても誇りに思います。』(2階看護科 看護師 門叶 真智子)

『こういった大きなプロジェクトに参加出来、貴重な体験が出来ました。また、みんなで教え合い、改善していき、協力があり、本当に助かりました。』

(2階看護科 介護リーダー 岩川 祥平)

『この度の表彰式は一つの節目として、薬剤科一同、今後は電子カルテの定着を目指して微力ながら貢献出来たらと思います。』

(薬剤科 科長 後藤 佐恵子、科長代理 平澤 佑実彦、主任 小熊 梢)

『事務局の一人として名を連ねていいのか、大いに迷うところではありますが、ここは素直に表彰していただいたことを喜びたいと思います。』(臨床検査科 科長 大谷 佐江子)

『この賞は、多くの方々のご協力のお陰です。今後も電子カルテをより使い易く、課題を病院全体で解決、取組を強化していきたいと思います。』

(リハビリテーション科 科長代理 山本章)

『この受賞はリハビリ科の仲間の協力あってのことと思っています。電カル移行の混乱をともに乗り越えてくれたみんなに感謝しています。』

(リハビリテーション科 主任 常盤 智美)

『病院全体での大きな変化において、リハビリ科において大きな問題なく稼働できたのは、委員会のメンバー、またリハビリ科スタッフの協力による成果だと思います。』

(リハビリテーション科 理学療法士 井上 翼)

『電子カルテ事業は多くの方々のご協力を得て行なってきました。これからも色々な仕事にチャレンジしていきたいと思います。』

(栄養科 科長 廣瀬 孝洋)

『3年間の年月を経て、電子カルテも無事稼働しました。これからも、職員の円滑な業務の為に力添え出来たらと思っています。』

(総務課 主任 河野 妃登美)

『当院初めてのプロジェクトに関わることが出来、医療連携課からも多数表彰していただき光栄です。』

(医療連携課を代表して 課長代理 齋藤 裕和)



インタビュー

～折り紙作家 長永江さん～

その1

当院の待合コーナーにいつも飾られている折り紙の作品の数々。

拝見するだけで、心が温かくなります。今回は作品の作り手、長永江さんに作品に込める思いなどインタビューさせて頂きました。(長:長永江さん 大:大和)

大:いつ頃から制作を始められて、そのきっかけとなった思いは？

長:本格的には2017年12月ごろからでした。きっかけは「何か壁に飾りたい!」という思いがふくらみ、軽い素材で何かできないか考え「紙のもの」→「折り紙の作品」につながりました。子どものころから、広告の紙を利用して折り、テープでつなげて、ティーカップなどを作っていたと母から。思い起こすと、何かを作ることは昔から好きでしたね。

大:1~2ヶ月にひと作品のペースで、新しい作品を作られて私たちの目を楽しませて頂いておりますが、季節感を出しながらどのような思いを込めて作られていますか。紙の選定や、制作過程のことなど教えてください。

長:季節感のある花や、節句や行事など踏まえて、立体感あるものを織り交ぜながら出来上がりの構図を考えています。紙を含め素材を集めることが何より

の楽しみ。100円ショップも侮れません。スーパーに行ってもまず、文具や折り紙などのコーナーから物色し(笑)、新しい出会いにワクワクしています。手に入れた素材に触れ、紙の質感・気持ちよさを確かめることも楽しみであります。それでも気に入って手に入れた絵柄の紙を折ってみると、作るものが小さすぎて柄が生きなかつたりすることもあります。それもまた新たな発見に繋がります。

制作したいものが決まるとインターネットで、「折り紙・夏・立体」など入力し検索します。折っている工程の手元が写されているもの、自分の手になじむ折り方をしているサイトを選び、折っていきます。完成するまでは地道な作業。クリスマスツリーは星のパーツをなんと3050個も! その星を土台の木にボンドで貼り付けて普通サイズのツリーを33個作成しました。貼り付ける際はしっかり接着できる木工用ボンドが一番。(乾いたときに透明になり作品の見栄えに影響しない) どんぐりは帽子部分の制作→本体を制作→本体を立体的に見せるため丸めたティッシュ詰め→帽子と本体を合体と4工程を経て完成となります。



接遇VTRの感想

- ・ご家族から温かいメッセージを頂いて、患者さんご家族様に感謝の気持ちでいっぱいになりました。患者さんと向き合うことが出来れば気持ちが伝わると信じてやっていきたいと思いました。(2階病棟・神尾)
- ・当院のような療養型の病院では、患者様のお看取りをすることが多く、お別れが辛いものとなり負担を感じる場合があります。しかし、患者様のご家族からの言葉や、他のスタッフの頑張りに触れ、励みになります。(リハビリ・山下)
- ・ご家族からのメッセージがとても励みになります。“人に優しく”を忘れずに患者様・ご家族様に関わっていただけたらと思います。(2階病棟・金戸)
- ・日々の業務に追われ、慈しみの精神を忘れてかけるといつもこのVTRを思い出します。患者さんやご家族の言葉に支えられ、あらためて“命の尊厳”という原点に立ち返らせて頂いています。(MSW・大崎)

レク係でミニ音楽会を開催した時に、患者様が一緒に歌を歌って下さったり、笑顔全開で「楽しかった」と言って下さり、スタッフ一同ホッとしました「又、ぜひやって欲しい」と言われた時は、逆に感動しました
患者様の笑顔をひきだせる様、又、頑張ります



🍀 温かい気持ちはどこから湧き出してくるのか? 🍀

ひふの話

その
58

市川 雅子(皮膚科医師)

紫外線対策

とうとう3回目の新型コロナの緊急事態宣言が発令されました。この号が出る頃には東京は解除されているのでしょうか?ワクチン接種はいまだ進まず(海外でも「オリンピックが開催される」日本の接種率の低さがニュースになっているようです)、通勤電車に乗っても発令前と変わらない混雑ぶり。大阪の危機的状況は東京でも十分起こりえます。大変だとは思いますが、皆さまも引き続き、マスク、手洗い、3密を避けるなど、気をつけてお過ごし下さい。

さて、今回は紫外線対策についてです。マスクをするのが日常的になった昨今、意外と日焼け止めをしていない人が多いようです。紫外線はマスクを通ります。UVカットのマスクも売られているようですが、どの程度カットできるのか、説明書で確認して下さい。基本は、やはりどんなマスクをしていても日焼け止め

を塗ることです。数値の高い日焼け止めではなく、子供でも使えるくらいの数値の低いもので十分です。日焼け止めに表示してある2種類の紫外線のブロック指数ですが、日本での日常生活では、SPF10~30、PA+~3+あれば十分です。そして2,3時間毎に塗り直すこと。数値が高いものでも塗り直さなければ効果は弱まります。また、帽子や日傘などによる物理的防御も併用するとなお良いでしょう。〈日焼け止め〉の成分として、紫外線散乱剤と紫外線吸収剤があります。散乱剤は酸化チタンの粉などを使って反射させるもの、吸収剤は紫外線を弱める化学物質です。肌の弱い方や子供には吸収剤を使っていないものが良いでしょう。そして普通の石鹸で洗い落せるものを選びましょう。製品を買ったら必ず使用説明書を読んで下さい。

ただ、日光は体内でのビタミンDの合成を促し、体内時計のずれをリセットし、気分や睡眠に良い効果をもたらすこともわかっています。紫外線対策のやりすぎにも注意しましょう。



お知らせ

オンライン面会のご様子

昨年からの新型コロナウイルス感染症拡大により、現在当院ではオンラインによる面会を行っています。画面越しではありますが、患者様やご家族のお心が、安心に満ちた穏やかなものになるよう、出来るだけ交流の場を絶やさないようにと思っています。



総合防災訓練実施報告

3月に実施した総合防災訓練では人工的に作った停電の環境下で、患者さんの命に関わる大事な作業や、普段経験できない設備に触れることを経験しました。

具体的には

- ① 普段動かすことのない「防火扉」の仕組みの理解、誤作動への対応
- ② 停電下で電子カルテが使えない状態での看護・介護の記録対応
- ③ 酸素配管断裂した場合の酸素吸入・喀痰吸引設備の切り替え対応

一人ひとりの職員が正しい知識を持って、行動できることを目指し取り組めた意義のある訓練になりました。(防火管理委員会)



編集後記

旅先で年季の入った酒場をめぐるのが楽しみだった日も今は昔、長引くコロナの流行で叶わなくなりました。しかし見方を変えれば、連れ合いの手料理で晩酌を楽しむこと

もまた一興と気付かせてくれたのもこのコロナ。そう考えると不自由な毎日も決して捨てたものではありませんね。(M.K)